

新田 1階の絵は荒井良二さんですが、2階の絵は絵本作家のあべ弘士さんです。あべさんは、旭川の旭山動物園の飼育係を24年間務めました。旭山動物園の園舎の壁はすべてあべさんの絵が描かれていて、それが大人気なのです。動物園が役所仕事をしていない、だとすれば「キッズランド」にも楽しい絵が描いてあったらいいなということを描いてもらいました。中には荒井さんとあべさんの絵があるからと遠方から来るファンもいます。

今回の「総合計画」で、おもしろいと思うているのが、「地域力の向上」という二つ目の柱です。これを白石で取り組むのはとてもおもしろいと考えています。この2つ目の柱にはどのような思いがありますか。

小さな時から地域に関わる

市長 本市は昭和の大合併で1町7カ村が合併し、いまの白石市になっています。白石市といってもそれぞれに地域性があり、地域の特色や地域資源を活かしたまちづくりを行っています。その中で非常にうれしかったのが、一昨年に文部科学大臣から齋川公民館が日

本一の公民館として表彰されました。東北では初受賞です。人口減少という地域課題があるなかで、自分たちの地域を次の世代にどのように残していくのかをわが事として考えて、地域の皆さんが地域のために子どもたちを巻き込みながらまちづくりをしていることが評価されたのだと思います。私は地域力をさらに深めていくための人づくり、地域づくり、これを「総合計画」の中の大きな柱にしていきたいと考えてました。

新田 全国に何百という公民館がある中で、最高賞を白石でいただいたというのは、非常に大きな起爆剤になると考えていました。

齋川地区は、地域の小学校が閉校になるということでだいぶショックを受けていました。地域の人は、小学校がなくなると地域全体が元気がなくなるのではないかと、心配した人がたくさんいたと思います。

しかし、齋川公民館で行われている「ころ柿作り」などの子どもたちを巻き込んだ行事や住民主体で地域のさまざまな課題に対してアイデアを出す場の開催などの取り組みが賞をいただいて、他の地域も意識が変わったと思います。

育ち、地域づくりというのは、自分たちも参加するよという意識がとても大事で、それが自分たちの地域を見直すきっかけになると思います。

まちづくりはおもしろい

市長 齋川公民館が日本一の公民館に選ばれたことが、ある意味他の地区にも良い刺激になっていて、中学生が盆踊り大会で司会をしたり、子どもたちのお世話をしたりする。これまで中学生が地域で活躍する場がそれほど多くなかったと思いますが、中学生が植栽や清掃活動などを地域の人と一緒に活動するところが増えてきていて、将来楽しみだなと思っています。

新田先生は、各地域にコーディネーターとして入ると、住民の方と触れ合う機会が多いと思います。白石がさらに発展していくための何かヒントがあれば教えてください。

新田 地域の中には、ある程度の不平や不満があるのは当たり前だと思います。けどその不満の部分だけを並べても物事は進まないし、特にまちづくりは前進しませぬ。「面白石の会」で話したことは、

顔が上を向いていると太陽の光が面にあたって面が白くなるわけです。その逆は面が倒れて、面倒です。まちづくり？ 何か面倒だなと思ってしまうとみんなが下を向くわけです。そうではなくて、やるなら面白く、白石は何かおもしろいことがあるよとひっかけて、子どもから大人の幅広い年代のメンバーで「面白石の会」というのを立ち上げました。

また、「キッズランド」のイベントでは、福岡中学校と白石工業高校の生徒たちがお客さんに向かってワークショップを行った時に、「キッズランド」のお客さんの接客もしてくれて、キッズランドのイベントを全員で盛り上げて



▲平成29年度に行われた「齋川ころ柿づくり体験」の様子

住民主体のまちづくりを進める「まちづくり宣言」。まちづくりは行政が決めることではなく、行政と住民が一緒に計画を立てて進めていく、これはおもしろい取り組みだと思えます。こうして各地区が動き始めると競争が始まるわけです。あ、あの地区が生き生きしてきた、じゃあこっちはもう「良い競争」ですね。

市長 これまで本市では、それぞれの地域をさらに元気にしたいという思いからまちづくり交付金という制度を通して、各地域に補助金を出して、応援させていただいていました。



▲「キッズランド」内の壁にはたくさんの絵が描かれています

くれたことがありました。これには感動しましたね！ 若い人の考えは素晴らしいね！ といったら、大人が支えながら子どもの活動を見守っていくのが、これからのまちづくりのとても大事なことだと思えますね。

市長 私は、子どもたちには成功体験を味わって欲しいと願っています。多くのことにチャレンジして、当然失敗はあると思いますが、成功した時に家族や家族以外の人から「すごいね！ 次もがんばりたろう」とすごい言葉をかけてもらうという前向きな言葉をかけてもらうことで子どもたちは間違いなく成長していくと思います。私はこれからの10年間というのは、本市がさらに発展すると感じています。こんなことができるよという子どもたちや若い人たちが成長していくことで市の大きな魅力の発信と、シビックプライド（まちへの誇りと愛着）の醸成につながるのではないかと期待しています。

新田 そうなんです、今回このような計画ができましたとなると、できたねで終わってしまうものです。しかし、計画にまちづくりの答えは書いていないのです。この

あたり、まちづくり交付金制度をさらに拡充させました。交付金活用団体同士の交流促進や、活動の参考にもらおうと、互いの活動から学び合う機会を創ります。

また、「まちづくり宣言」を実現するのが大きな目的になると考えますので、しっかりと「まちづくり宣言」を実現するための事業には、市もさらに応援させていただこうと。この制度をさらに磨きをかけて進化させたいと考えています。

新田 先ほども話しましたが、すべてを行政にお任せすると行政が肥大化していくわけです。そうではなくて、住民の人たちと一緒に、特に子どもたちも一緒に参加することが大事なんです。成長とともに子どもは若者になり、その若者が地域に入って一緒に活動するようになる。このようにして地域への参画の気持ち小さいうちから

「総合計画」を設計図にして未来に向かって歩きませんか、未来を担う子どもたちとワクワクドキドキするまちづくりをする。その子どもたちが10年経てば市民のリーダーとして活躍してくれるというのが結果です。これはとても期待できるというか、まちづくりの仕事を長年携わる私の目から見ても非常に素晴らしい計画ができたなと思っています。

市長 現在、コロナ禍ではありませんが、子どもたちがたくましく、そして力強く成長していくために「キッズランド」の存在は重要だと思っています。

次の10年間、そして、その先を見据えた将来の人材育成のために、本市では、さらに子育てや保育といった環境を強力に推進していきたいと思えますので、今後もお力添えのほど、よろしくお願います。

